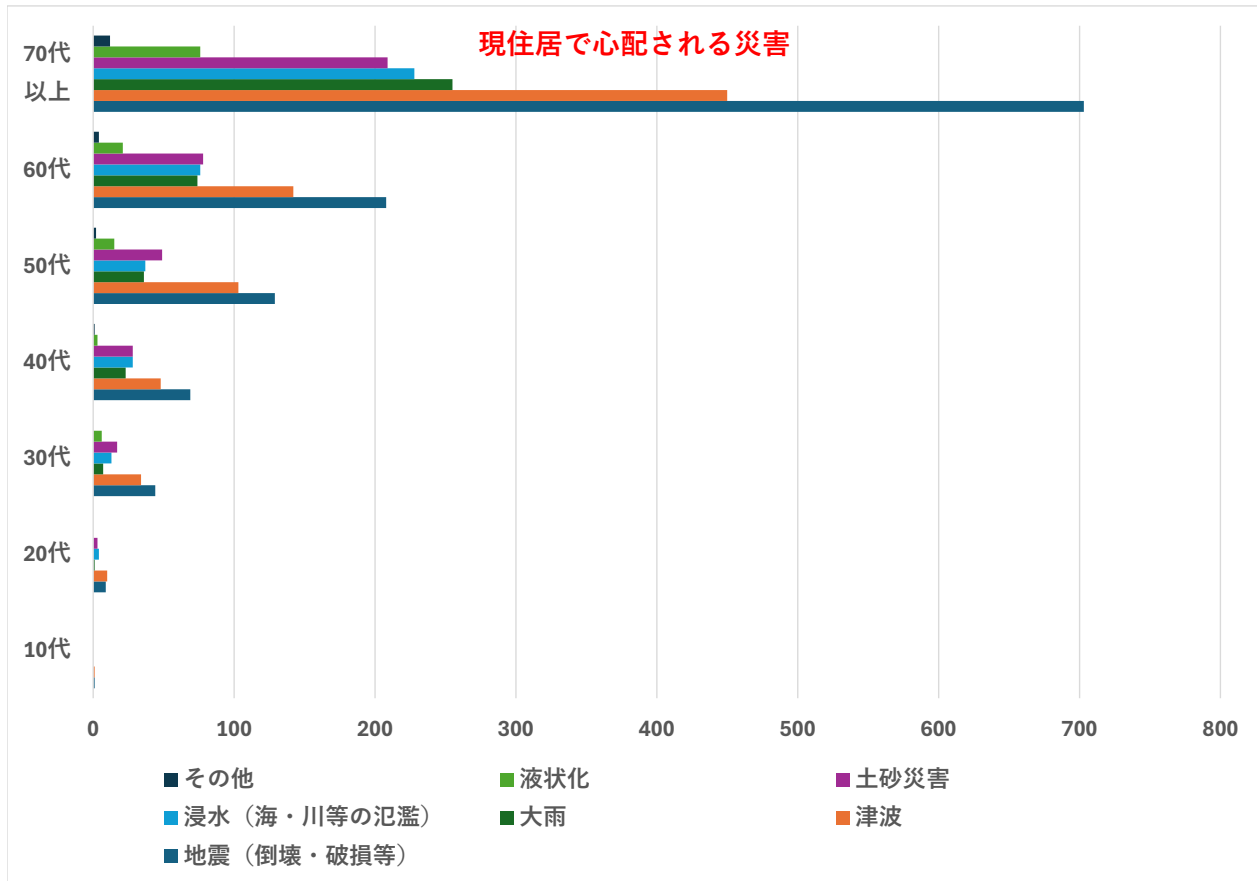


質問 1

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
地震（倒壊・破損等）	1	9	44	69	129	208	703
津波	1	10	34	48	103	142	450
大雨	0	1	7	23	36	74	255
浸水（海・川等の氾濫）	0	4	13	28	37	76	228
土砂災害	0	3	17	28	49	78	209
液状化	0	0	6	3	15	21	76
その他	0	0	0	1	2	4	12
有効回答数	2	27	121	200	371	603	1933



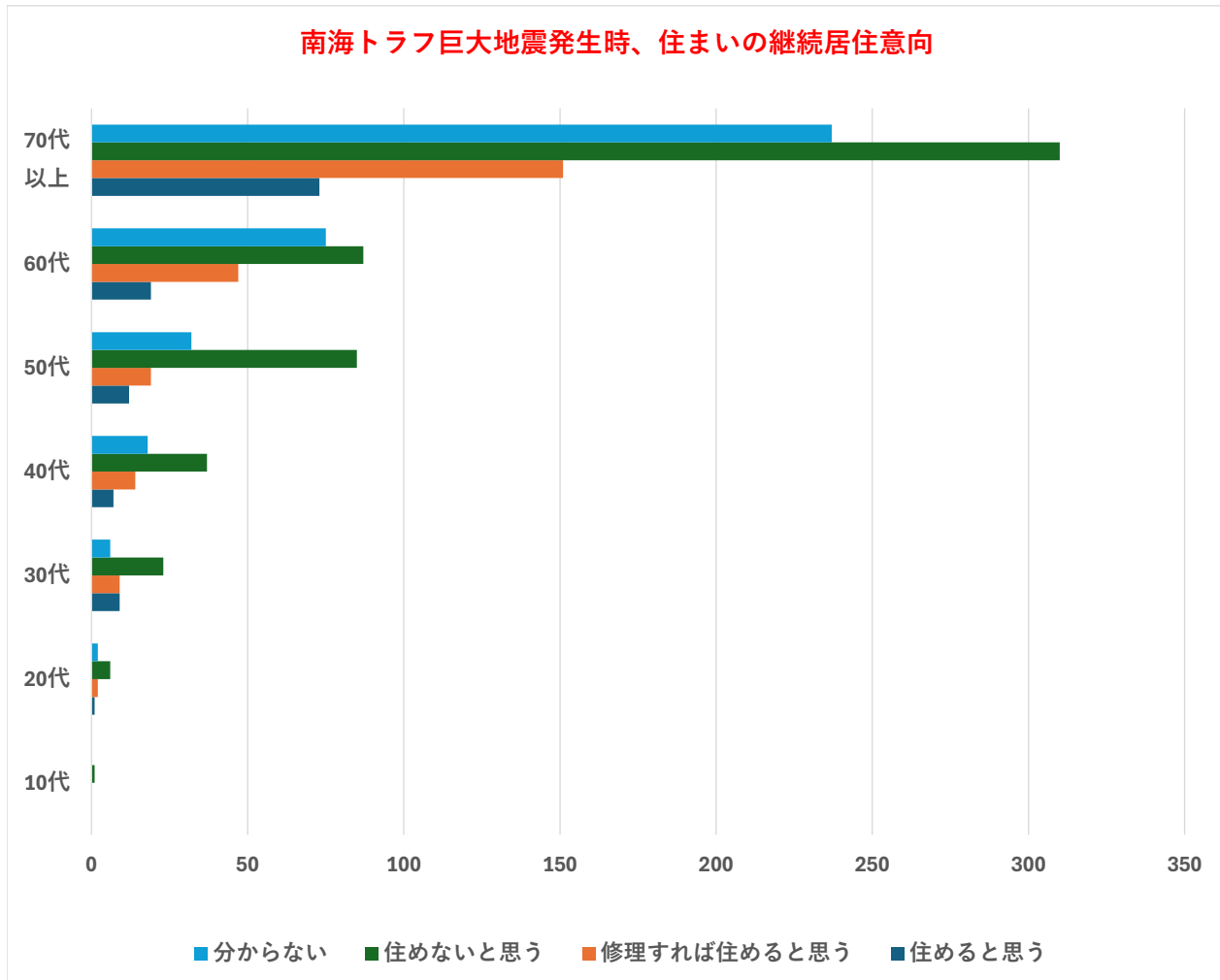
年齢別の回答者としては、70代以上の高齢者からの回答が一番多く、次いで60代、50代・・・10代の順番となっている。どの年代も「地震（倒壊・破損等）」及び「津波」が心配される災害の上位を占めている結果となっている。次いで「大雨」、「浸水（海・川等の氾濫）」、「土砂災害」となっている。

年齢層が高い世代からの回答が多いということは、災害に対する関心の高さと同時に過去に被災した経験からもきていると推測できる。逆に10代～30代の若年層からの回答が極端に少ないということは、災害に対する関心の低さ若しくは、少子高齢化による町内の若年層の人口が少ないことによるものと推定する。

質問 2

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
住めると思う	0	1	9	7	12	19	73
修理すれば住めると思う	0	2	9	14	19	47	151
住めないと思う	1	6	23	37	85	87	310
分からない	0	2	6	18	32	75	237
有効回答数	1	11	47	76	148	228	771

南海トラフ巨大地震発生時、住まいの継続居住意向



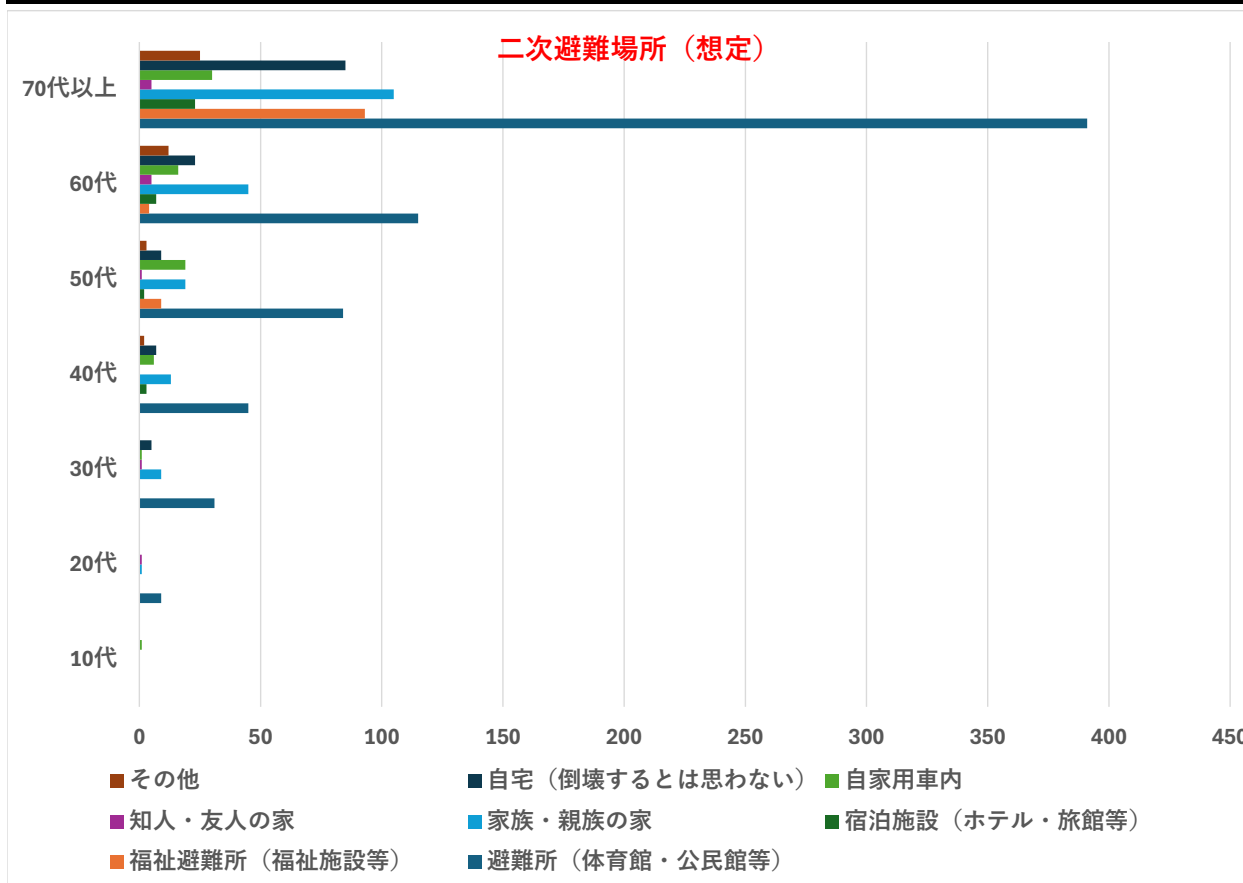
全ての年代において、南海トラフ巨大地震発生時には、「住めないと思う」という回答が第1位である。次いで「分からない」と回答した方が多く見受けられた。

「住めると思う」あるいは「修理すれば住めると思う」と回答した方は、全体の3割弱程度にとどまっている。逆に「住めないと思う」と回答された方は全体の4割強を占めている。その約半数は70代以上の高齢者となっている。

住宅の規模や耐震構造の有無にもよるが、70代以上の高齢者の住宅は築年数も相当年数が経過していると考えられる。その点も考慮して「住めないと思う」と回答した方が多かったのではないかと推測する。

質問 3

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
避難所（体育館・公民館等）	0	9	31	45	84	115	391
福祉避難所（福祉施設等）	0	0	0	0	9	4	93
宿泊施設（ホテル・旅館等）	0	0	0	3	2	7	23
家族・親族の家	0	1	9	13	19	45	105
知人・友人の家	0	1	1	0	1	5	5
自家用車内	1	0	1	6	19	16	30
自宅（倒壊するとは思わない）	0	0	5	7	9	23	85
その他	0	0	0	2	3	12	25
有効回答数	1	11	47	76	146	227	757



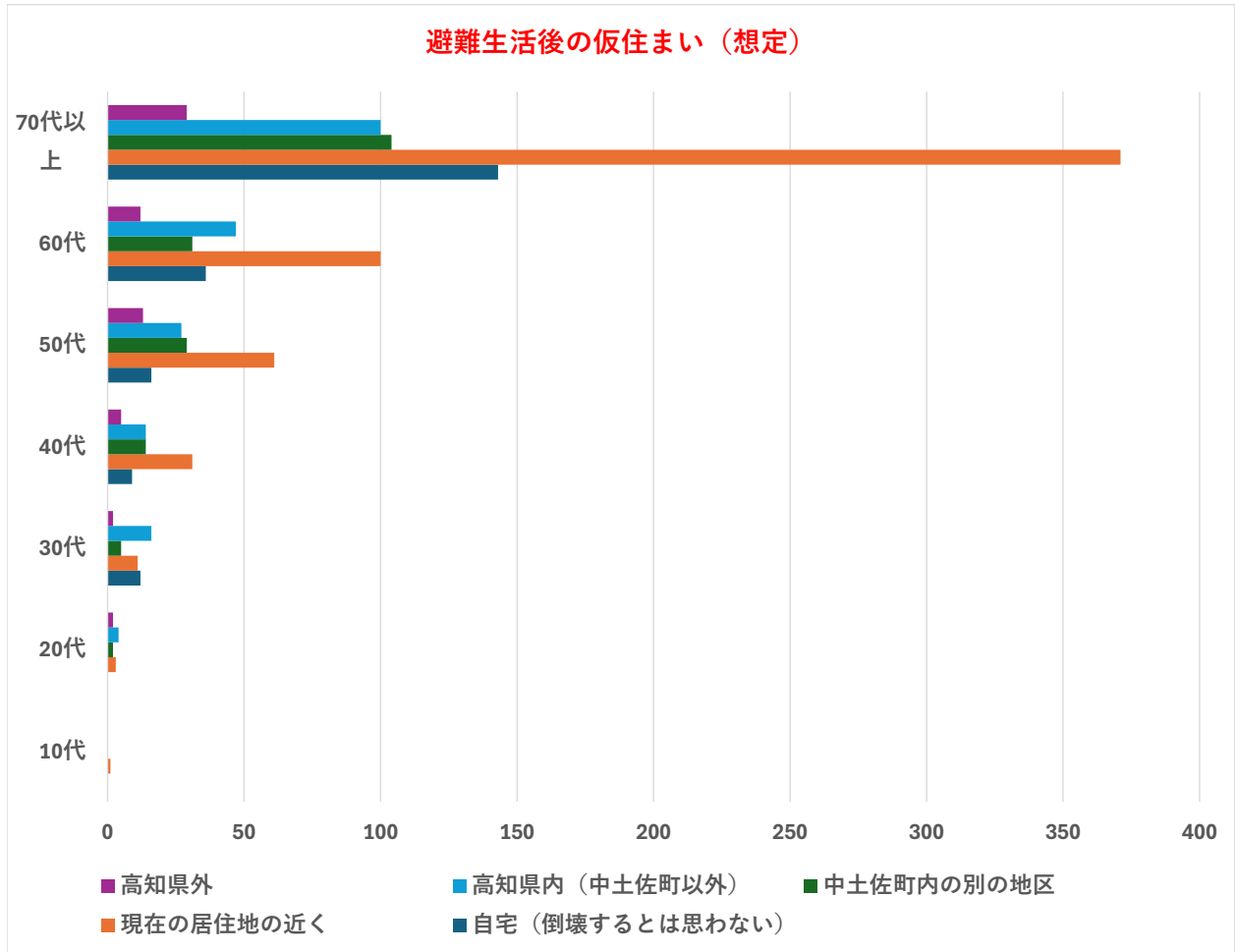
二次避難場所として想定している場所は「避難所（体育館・公民館等）」と回答している方の割合が10代を除いて圧倒的に多い傾向である。次いで、同様に「家族・親族の家」の割合が多いことを示している。

自家用車内と回答された方の割合は若年層に多いが、高齢層になるに従ってその割合は低下傾向にある。また「宿泊施設（ホテル・旅館等）」と回答された方は30代以下は一人もなく、40代以上の方となっている。

「避難所（体育館・公民館等）」と回答された方のほとんどは、自宅最寄りの公共施設や学校施設を選択したものである。また高齢者で「家族・親族の家」と回答された方は身内の家の方が心理的にも安心できるということと推測できる。「自家用車内」と回答された方はある程度長期間の避難生活は車中泊で対応が可能な方、あるいは最寄りに「避難所（体育館・公民館等）」がない方なのではないか。

質問 4

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
自宅（倒壊するとは思わない）	0	0	12	9	16	36	143
現在の居住地の近く	1	3	11	31	61	100	371
中土佐町内の別の地区	0	2	5	14	29	31	104
高知県内（中土佐町以外）	0	4	16	14	27	47	100
高知県外	0	2	2	5	13	12	29
有効回答数	1	11	46	73	146	226	747

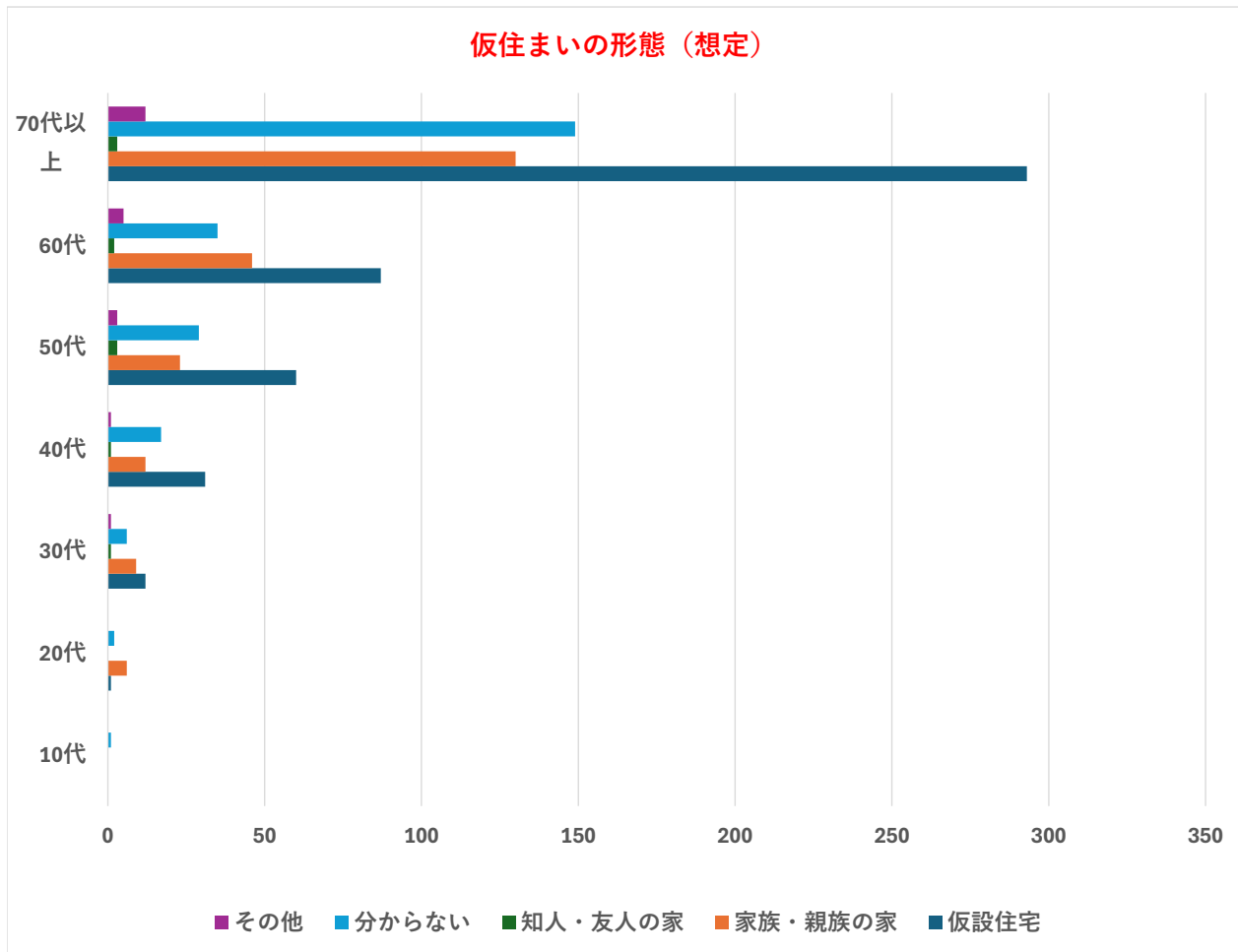


避難生活後の仮住まい（想定）については、全ての年代において「現在の居住地の近く」と回答された方が多く、全体割合の半数近くを占めている。次いで、「自宅（倒壊するとは思わない）」と回答された方も多く、自宅の災害耐性についてある程度の自信を持っていることがうかがわれる。

「中土佐町内の別の地区」よりも、「高知県内（中土佐町以外）」と回答された方は20代、30代及び60代の方に多く、余震等を警戒した方が一時的に県内の別の地区に居住を検討しているものと考ええる。

質問 5

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
仮設住宅	0	1	12	31	60	87	293
家族・親族の家	0	6	9	12	23	46	130
知人・友人の家	0	0	1	1	3	2	3
分からない	1	2	6	17	29	35	149
その他	0	0	1	1	3	5	12
有効回答数	1	9	29	62	118	175	587

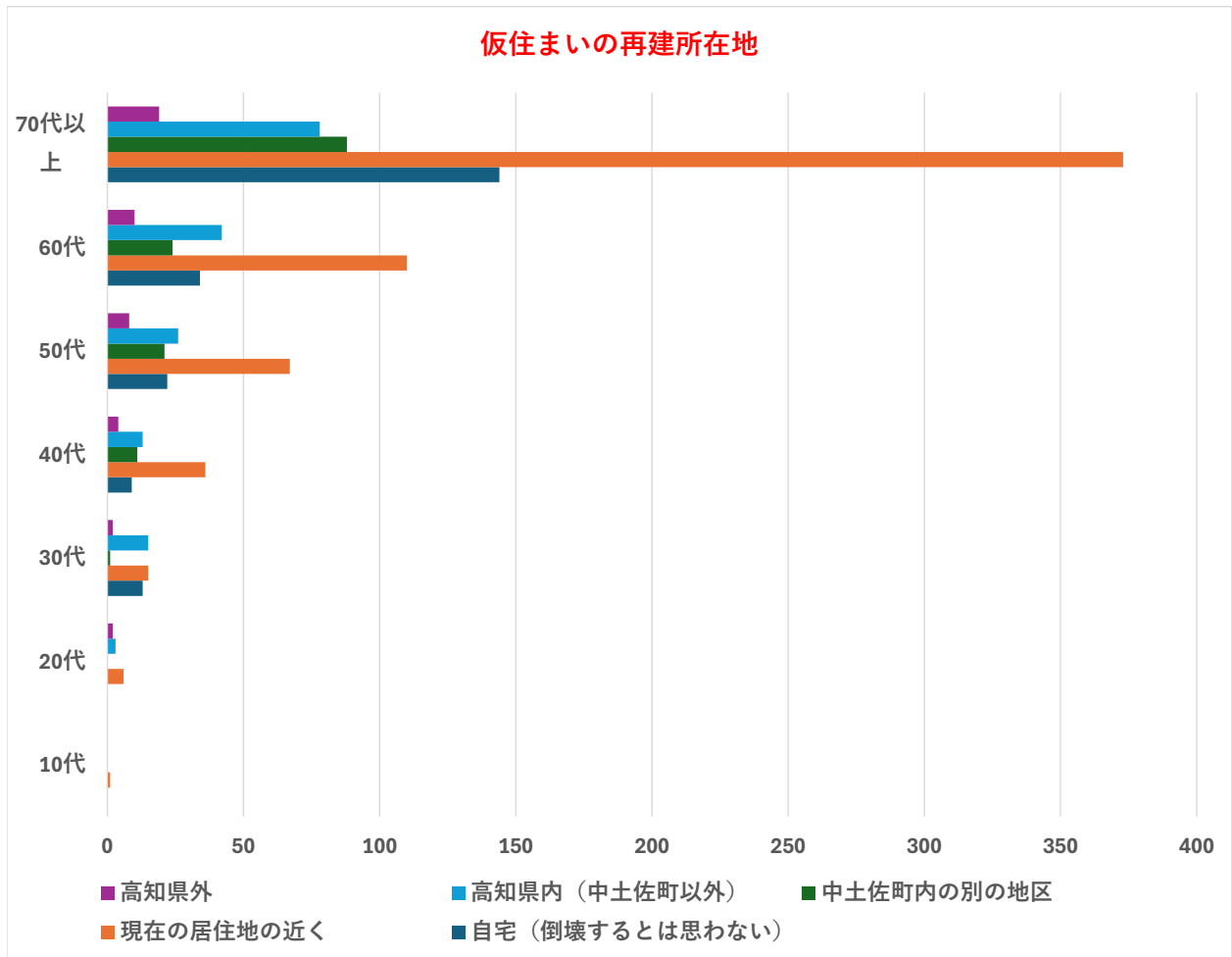


仮住まいの形態（想定）については、30代～70代以上の年代にわたり「仮設住宅」と回答した方が多くなっている。また、「家族・親族の家」と「分からない」との全体割合はほぼ同数であり、「知人・友人の家」と回答した方は、全ての年代の方において割合は僅かであった。

全ての年代で言えるが、「親族・家族の家」と「分からない」が拮抗していることから、想定とはいえ現時点で、仮住まいの形態を決めかねている方が多いと推測される。

質問 6

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
自宅（倒壊するとは思わない）	0	0	13	9	22	34	144
現在の居住地の近く	1	6	15	36	67	110	373
中土佐町内の別の地区	0	0	1	11	21	24	88
高知県内（中土佐町以外）	0	3	15	13	26	42	78
高知県外	0	2	2	4	8	10	19
有効回答数	1	11	46	73	144	220	702

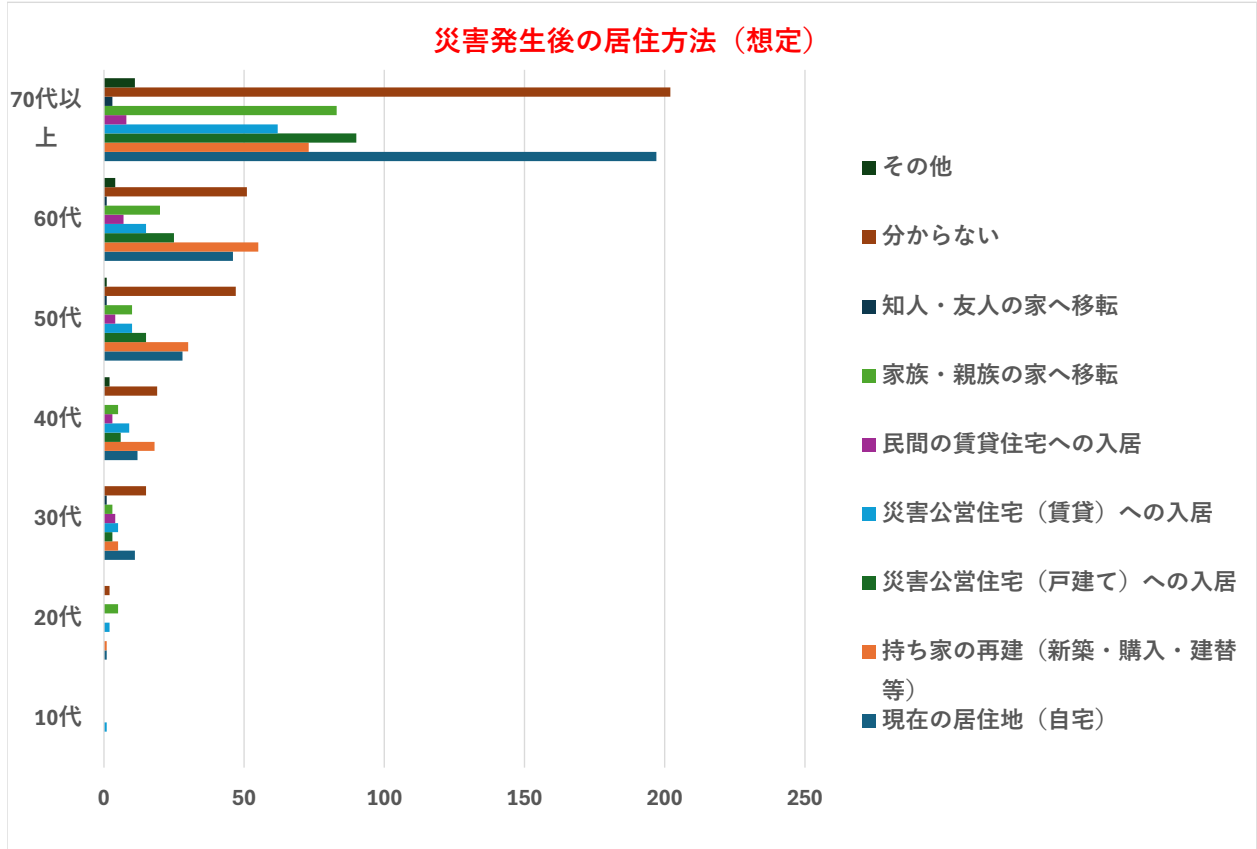


仮住まいの再建所在地については、全ての年代において、「現在の居住地の近く」の割合が一番多い結果となった。またそれ以外の回答については、「中土佐町内の別の地区」より「高知県内（中土佐町以外）」と回答した割合が20代から60代で多い結果となっている。「高知県外」と回答した方は全体でも4%程度にとどまっている。

現在住んでいる地区から、できるだけ離れたくないという地元志向が強い一方で、若年層ほど「高知県内（中土佐町以外）」と回答された割合が多く余震などの二次災害の懸念からと推測する。

質問 7

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
現在の居住地（自宅）	0	1	11	12	28	46	197
持ち家の再建（新築・購入・建替等）	0	1	5	18	30	55	73
災害公営住宅（戸建て）への入居	0	0	3	6	15	25	90
災害公営住宅（賃貸）への入居	1	2	5	9	10	15	62
民間の賃貸住宅への入居	0	0	4	3	4	7	8
家族・親族の家へ移転	0	5	3	5	10	20	83
知人・友人の家へ移転	0	0	1	0	1	1	3
分からない	0	2	15	19	47	51	202
その他	0	0	0	2	1	4	11
有効回答数	1	11	47	74	146	224	729



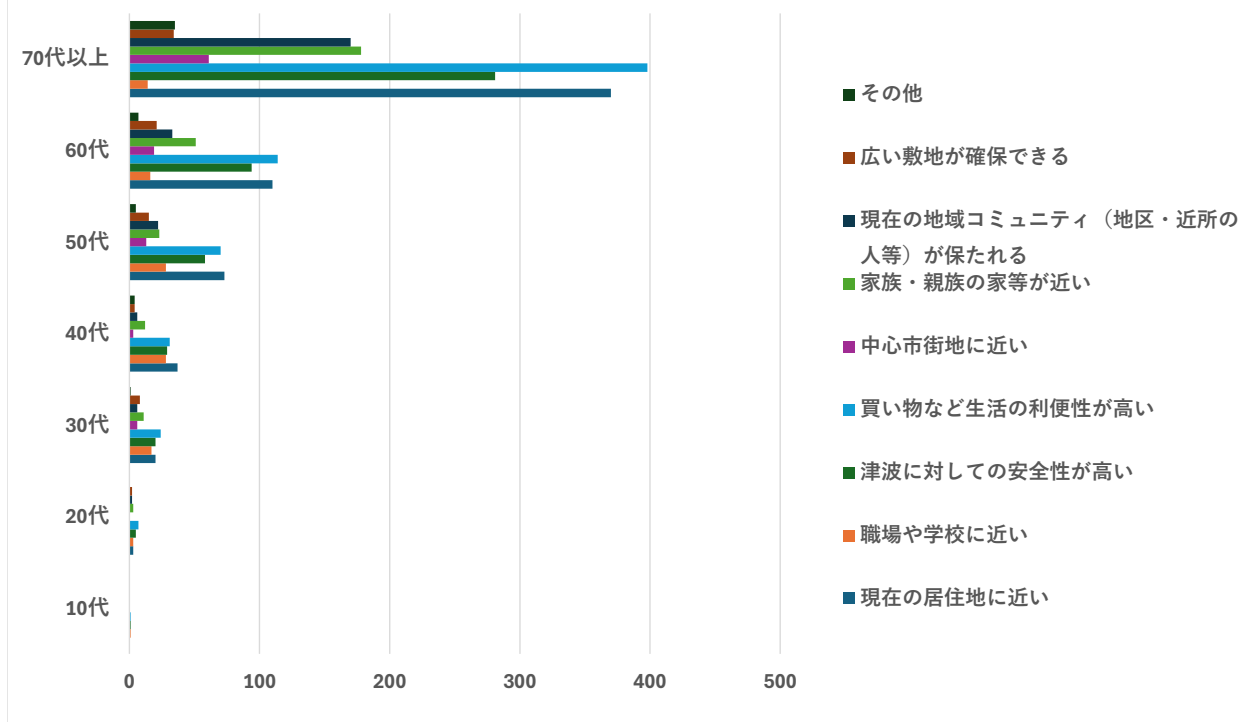
災害発生後の居住方法（想定）については「分からない」の回答割合が、30代～70代以上の年代について一番多くを占める結果となっている。また「持ち家の再建（新築・購入・建替等）」の回答は40代～60代に多く、70代以上になると、「災害公営住宅（戸建て）への入居」回答が多くなっている。また「家族・親族の家へ移転」と回答された年代は、70代以上の割合が顕著に多い結果となっている。

「分からない」と回答された方が多いのは、具体的に被災後の生活のイメージができていないためだと推測する。また「持ち家の再建」が40代～60代に多かった理由として、現役の働き世代としての財力と体力を考慮してのことと推測する。70代以上の回答者で「家族・親族の家へ移転」が多かった理由として、自分の子ども世代の家に移り住むことを想定していることが推測できる。

質問 8

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
現在の居住地に近い	0	3	20	37	73	110	370
職場や学校に近い	1	3	17	28	28	16	14
津波に対する安全性が高い	1	5	20	29	58	94	281
買い物など生活の利便性が高い	1	7	24	31	70	114	398
中心市街地に近い	0	0	6	3	13	19	61
家族・親族の家等が近い	0	3	11	12	23	51	178
現在の地域コミュニティ（地区・近所の人等）が保たれる	0	2	6	6	22	33	170
広い敷地が確保できる	0	2	8	4	15	21	34
その他	0	0	1	4	5	7	35
有効回答数	3	25	113	154	307	465	1541

自宅の再建時に重視すること



自宅の再建時に重視することについては、「買い物など生活の利便性が高い」の回答割合が、60代及び70代以上の年代に多い結果となっている。一方で、20代～50代の若年層は「現在の居住地に近い」と回答した割合が多いという結果になっている。

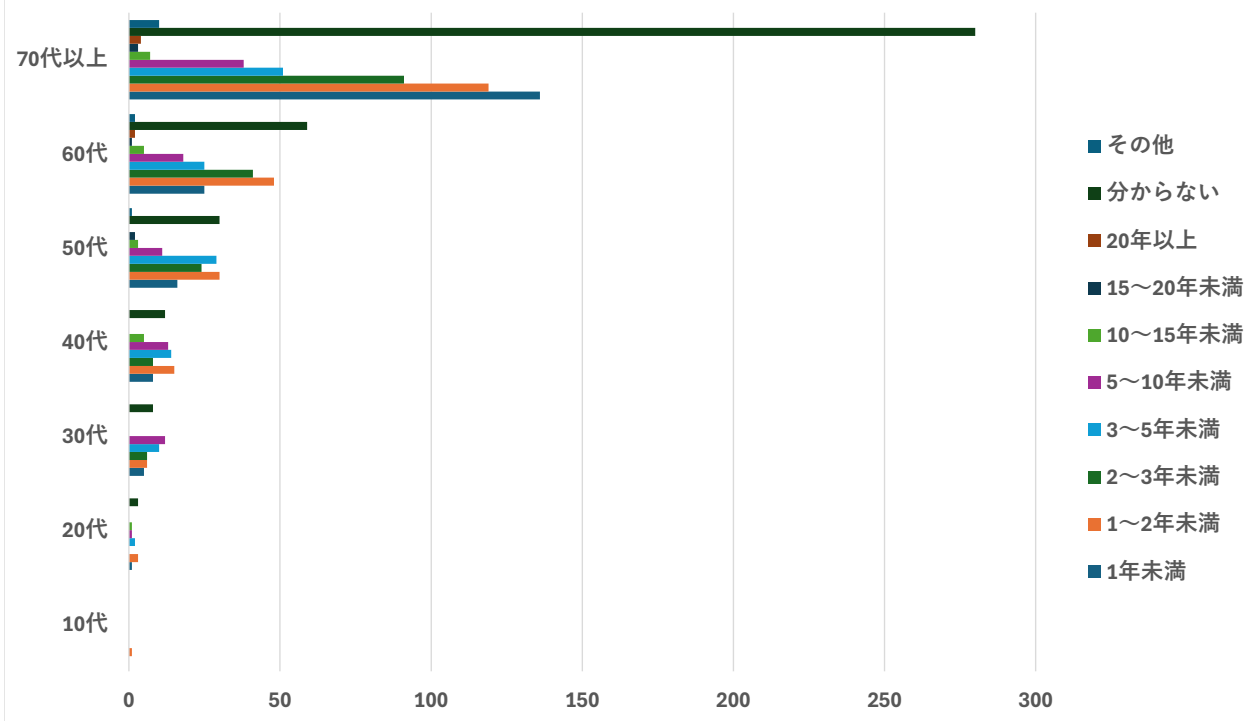
「家族・親族の家等が近い」の回答割合が60代と70代以上に高い結果となっており、高齢者ほど、家族・親族に依存する傾向が強いと推測される。各年代で共通していることは、現在の生活様式を変えることなく、安全で便利な暮らしを優先していることが推測される。

また「津波に対する安全性が高い」と回答された年代の割合も高齢者ほど高い傾向にあり避難時に速やかに行動できるかどうかの心配があることが推測される。

質問 9

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1年未満	0	1	5	8	16	25	136
1～2年未満	1	3	6	15	30	48	119
2～3年未満	0	0	6	8	24	41	91
3～5年未満	0	2	10	14	29	25	51
5～10年未満	0	1	12	13	11	18	38
10～15年未満	0	1	0	5	3	5	7
15～20年未満	0	0	0	0	2	1	3
20年以上	0	0	0	0	0	2	4
分からない	0	3	8	12	30	59	280
その他	0	0	0	0	1	2	10
有効回答数	1	11	47	75	146	226	739

災害発生から、元の生活に戻るまでに要する期間（想定）

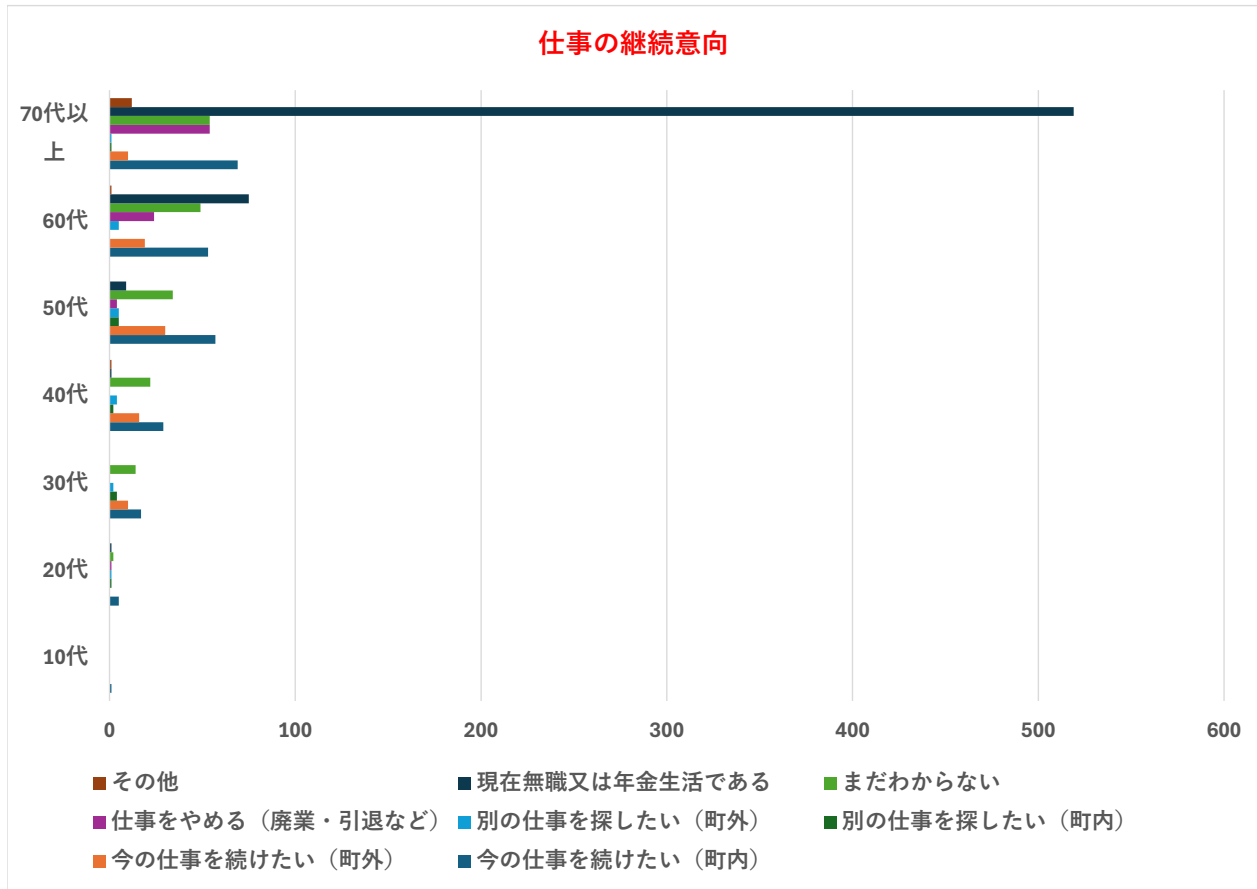


災害発生から、元の生活に戻るまでに要する期間（想定）について、20代～70代以上の各年齢層で「分からない」という回答が多数を占める結果となっている。次いで「1年未満」の回答が、70年代以上で最も多く、「1～2年未満」の回答は、40代～60代の回答者に多く見られた。全体の年代別を通して「分からない」以外の回答を見ても、「5～10年未満」までを想定する回答が圧倒的に多く、それ以上の期間を要するという回答は少数であった。

比較的短期間で、元の生活に戻れるという回答が多かったのは、あくまで希望的なものと推測される。その他の意見にもあったが、災害の規模にもよるので「分からない」という回答もあることから、実際に発生してみないと分からないという回答者が多くを占めた結果と言える。

質問10

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
今の仕事を続けたい（町内）	1	5	17	29	57	53	69
今の仕事を続けたい（町外）	0	0	10	16	30	19	10
別の仕事を探したい（町内）	0	1	4	2	5	0	1
別の仕事を探したい（町外）	0	1	2	4	5	5	1
仕事をやめる（廃業・引退など）	0	1	0	0	4	24	54
まだわからない	0	2	14	22	34	49	54
現在無職又は年金生活である	0	1	0	1	9	75	519
その他	0	0	0	1	0	1	12
有効回答数	1	11	47	75	144	226	720



仕事の継続意向について、全体として「現在無職又は年金生活である」の回答が約半数を占めている。これは回答者の7割強が60代又は70代以上の年代であることも理由になる。

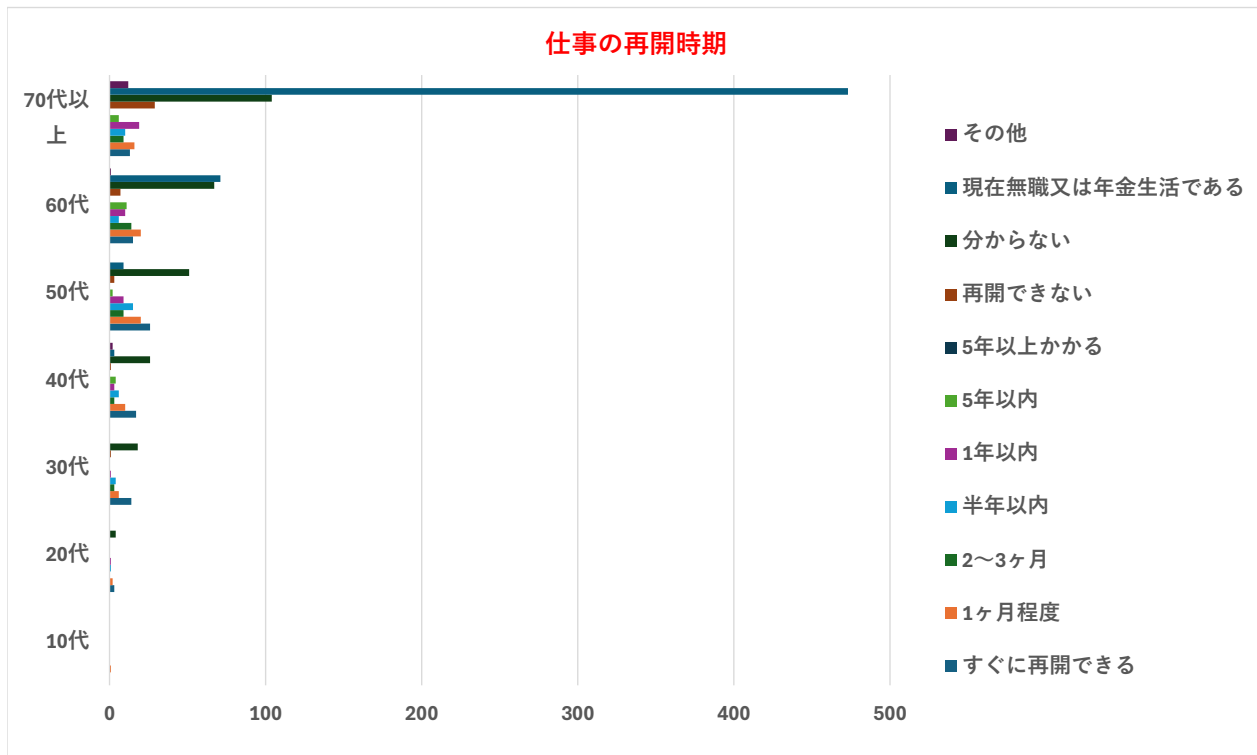
有職者の多くは、全ての年代において「今の仕事を続けたい（町内）」が多い結果となっている。一方で「別の仕事を探したい」という方は、町内外においてもごく少数であった。

また、「仕事をやめる（廃業・引退など）」の回答は60代及び70代以上の高齢者層に集中している結果となった。

全ての年代の有職者は、今の仕事を継続したいという意向がうかがえる。また同時に「まだわからない」も全ての年代で一定割合の回答であり、職種によっては別の仕事を探したいという選択肢も検討の余地ありということが推定される。

質問 1 1

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
すぐに再開できる	0	3	14	17	26	15	13
1ヶ月程度	1	2	6	10	20	20	16
2～3ヶ月	0	0	3	3	9	14	9
半年以内	0	1	4	6	15	6	10
1年以内	0	1	1	3	9	10	19
5年以内	0	0	0	4	2	11	6
5年以上かかる	0	0	0	0	0	0	0
再開できない	0	0	1	1	3	7	29
分からない	0	4	18	26	51	67	104
現在無職又は年金生活である	0	0	0	3	9	71	473
その他	0	0	0	2	0	1	12
有効回答数	1	11	47	75	144	222	691



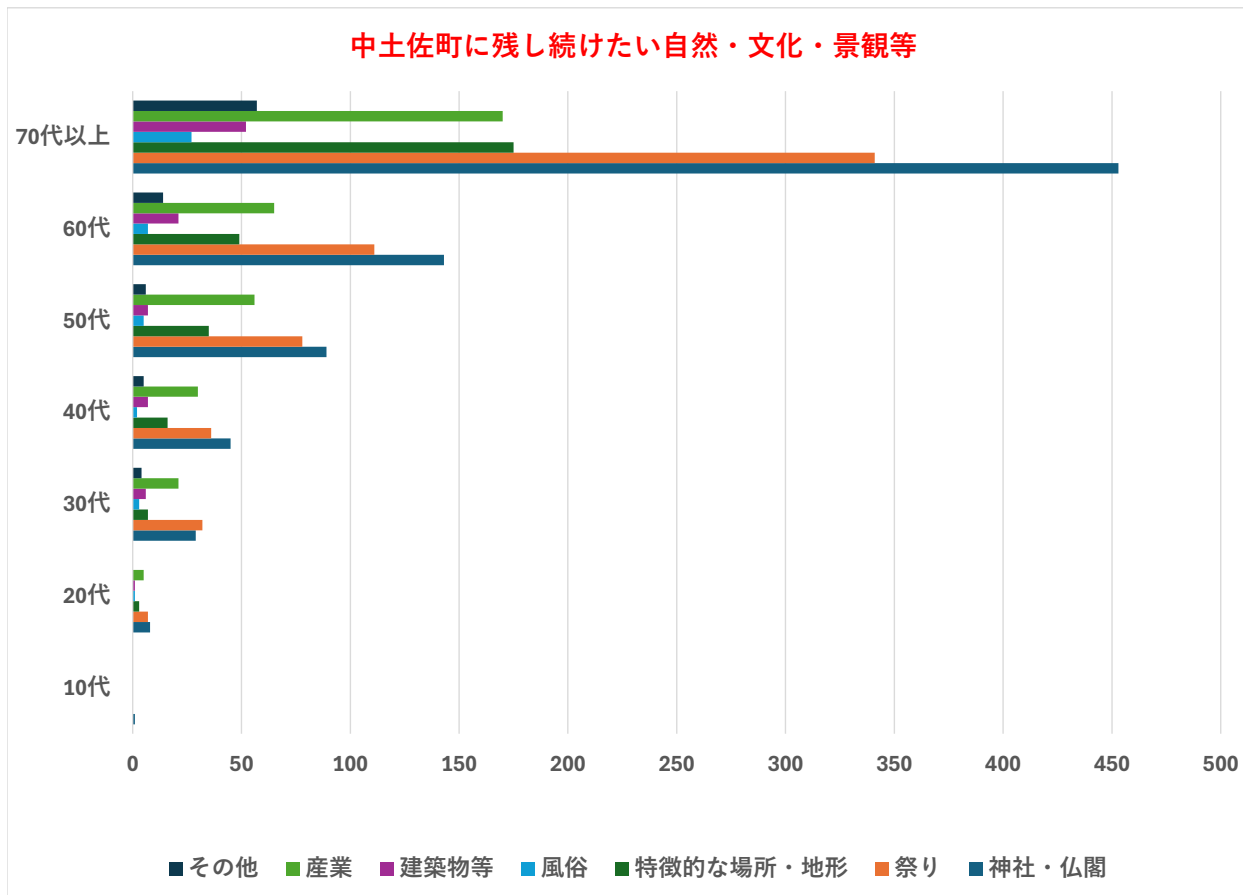
仕事の再開時期として、「現在無職又は年金生活である」が全体の半数近くを占めている。理由は前問と同様に60代、70代以上の回答者が多くを占めている結果だと言える。

有職者の20代～50代は、「すぐに再開できる」という回答が多い結果となった。また50代では「1ヶ月程度」が多く、70代以上では「1年以内」という回答が多かった。一方で「5年以上かかる」と回答した年代はおらず、本設問は、質問9の（災害発生から、元の生活に戻るまでに要する期間）という回答と相関関係であることが推定される。

質問 1 2

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
神社・仏閣	1	8	29	45	89	143	453
祭り	0	7	32	36	78	111	341
特徴的な場所・地形	0	3	7	16	35	49	175
風俗	0	1	3	2	5	7	27
建築物等	0	1	6	7	7	21	52
産業	0	5	21	30	56	65	170
その他	0	0	4	5	6	14	57
有効回答数	1	25	102	141	276	410	1275

中土佐町に残し続けたい自然・文化・景観等について、「神社・仏閣」及び「祭り」が回答者全体の約6割を占めており、全ての年代においても同様の結果となった。次いで「産業」が20代～60代が多く、70代以上では「特徴的な場所・地形」という結果になった。

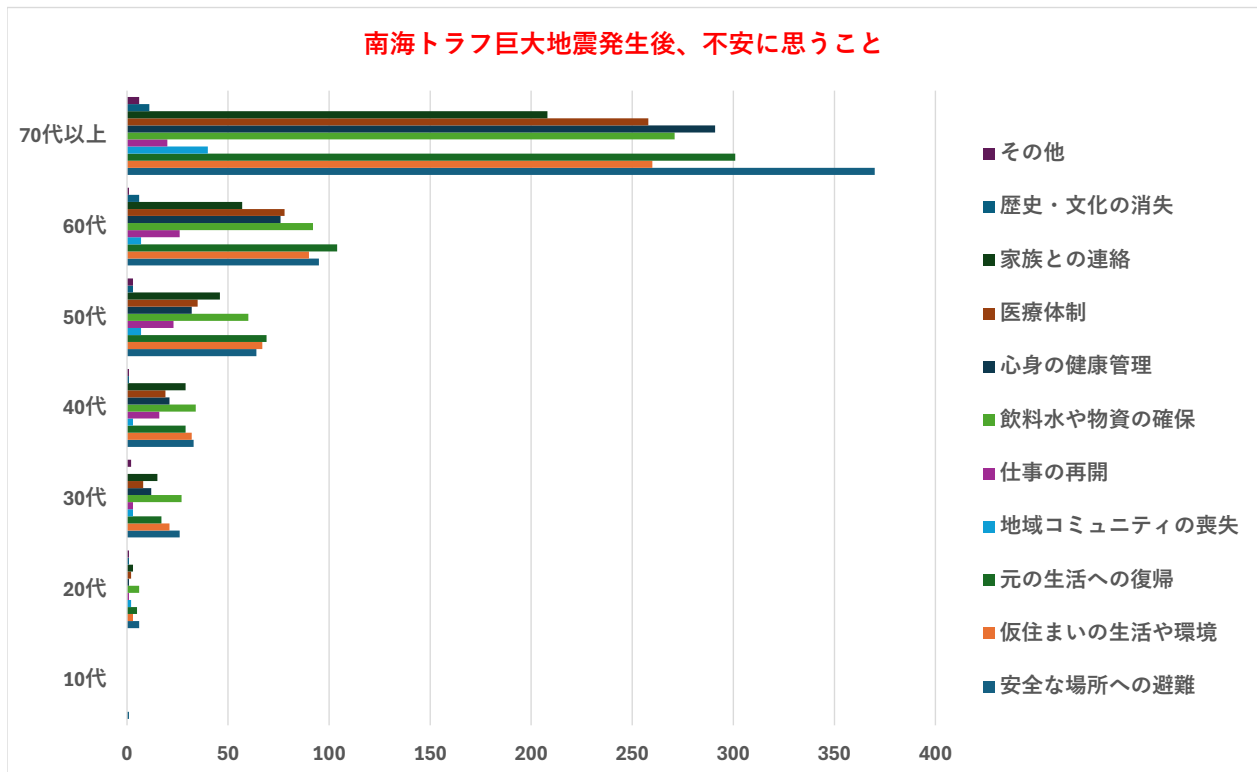


中土佐町内には、土佐三大祭りの一つである久礼八幡宮大祭があることから、この回答が多かったと推定される。

質問 1 4

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
安全な場所への避難	1	6	26	33	64	95	370
仮住まいの生活や環境	0	3	21	32	67	90	260
元の生活への復帰	0	5	17	29	69	104	301
地域コミュニティの喪失	0	2	3	3	7	7	40
仕事の再開	0	1	3	16	23	26	20
飲料水や物資の確保	0	6	27	34	60	92	271
心身の健康管理	0	1	12	21	32	76	291
医療体制	0	2	8	19	35	78	258
家族との連絡	0	3	15	29	46	57	208
歴史・文化の消失	0	1	0	1	3	6	11
その他	0	1	2	1	3	1	6
有効回答数	1	31	134	218	409	632	2036

南海トラフ巨大地震発生後、不安に思うこと



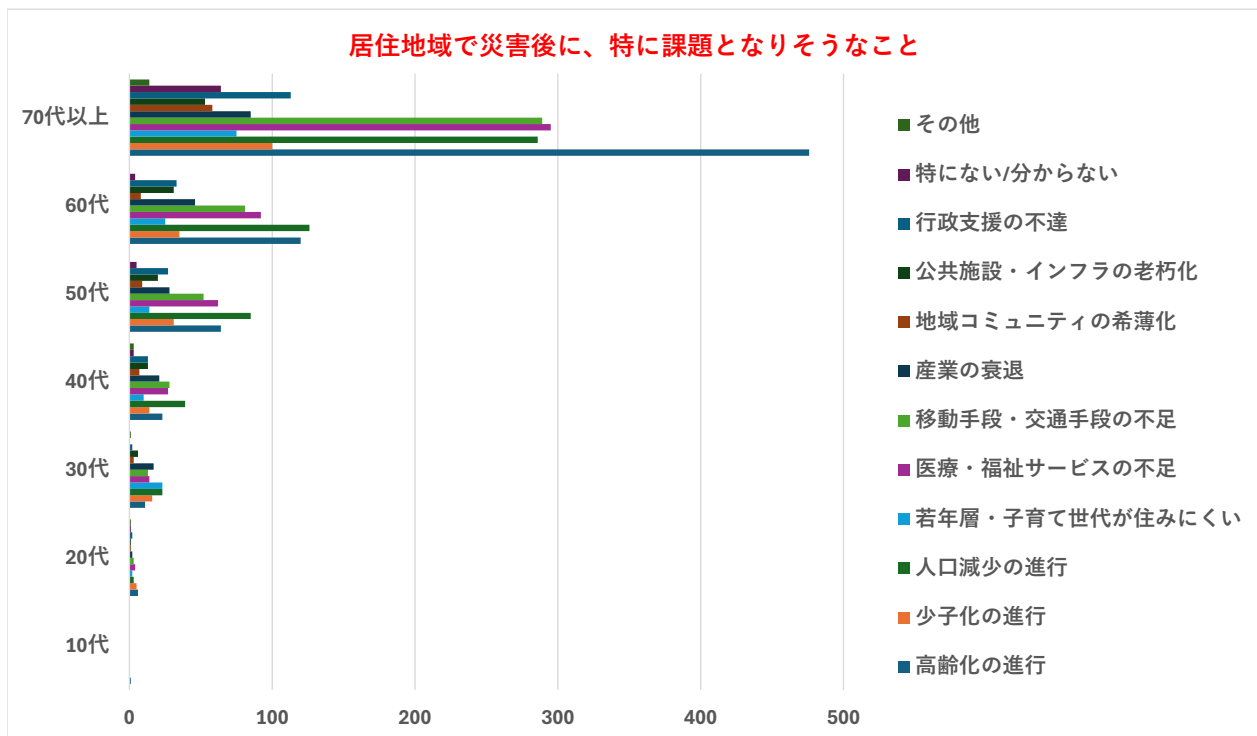
南海トラフ巨大地震発生後、不安に思うことについて、年代別で回答にばらつきがあった。20代～40代の回答者は「飲料水や物資の確保」が多く、50代及び60代は「元の生活への復帰」が多く見られた。また70代以上は「安全な場所への避難」という回答が最も多かった。

60代及び70代以上の高齢者になってくると、「心身の健康管理」や「医療体制」といった健康医療面に対する不安が増加している。また20代～50代の回答者の割合が多い項目として、「仮住まいの生活や環境」がある。住環境が変化した場合、ストレス等の精神面にもリスクがあると推測する。

質問 1 5

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
高齢化の進行	1	6	11	23	64	120	476
少子化の進行	0	5	16	14	31	35	100
人口減少の進行	0	3	23	39	85	126	286
若年層・子育て世代が住みにくい	0	2	23	10	14	25	75
医療・福祉サービスの不足	0	4	14	27	62	92	295
移動手段・交通手段の不足	0	3	13	28	52	81	289
産業の衰退	0	2	17	21	28	46	85
地域コミュニティの希薄化	0	1	3	7	9	8	58
公共施設・インフラの老朽化	0	1	6	13	20	31	53
行政支援の不達	0	2	2	13	27	33	113
特にない/分からない	0	1	0	3	5	4	64
その他	0	1	1	3	0	0	14
有効回答数	1	31	129	201	397	601	1908

居住地域で災害後に、課題となりそうなことについて、「高齢化の進行」「少子化の進行」「人口減少の進行」についての回答割合が全ての年代において軒並み高くなっている。また「若年層・子育て世代が住みにくい」の回答は20代～40代の子育て世代の割合が、他の年代と比較して多い。また「医療・福祉サービスの不足」「移動手段・交通手段の不足」については、60代及び70代以上の高齢者層の回答割合が多いという結果になった。

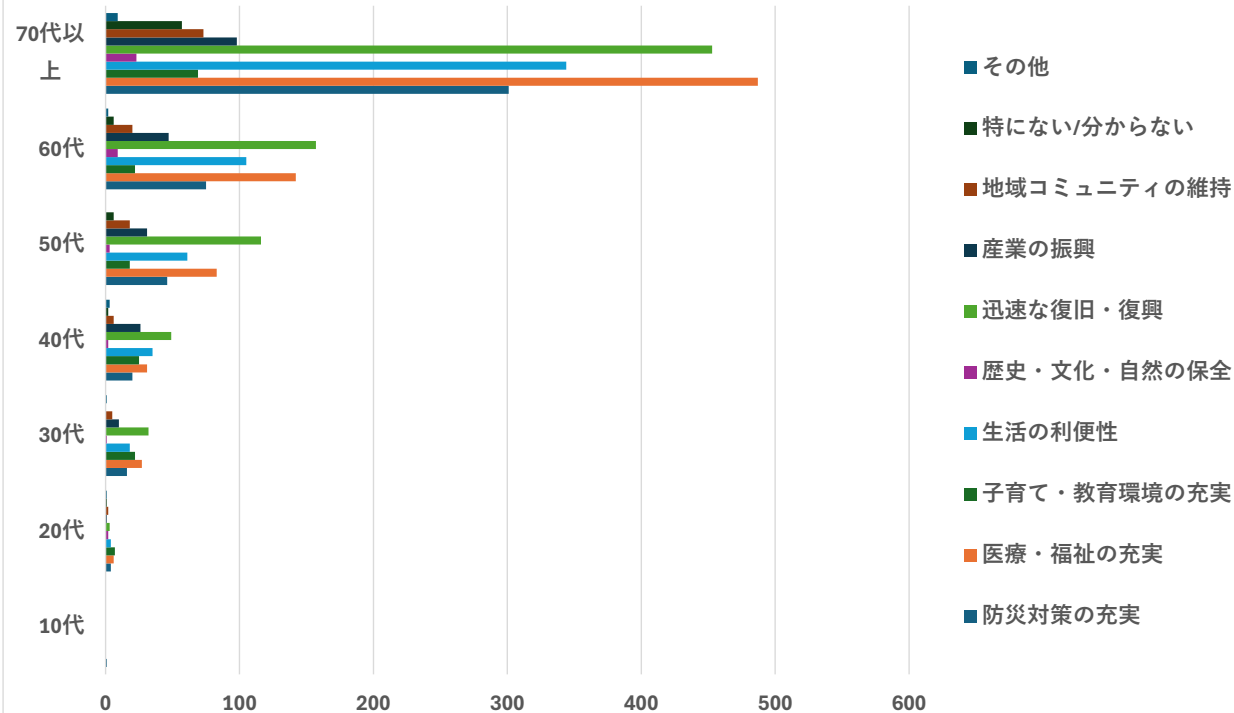


少子高齢化は加速度的な速さで進行しており、災害後は若い世代が一段と少なくなるのではという危惧が表れていることが分かる。また高齢者層では単身者が多いことから、医療面や移動手段に対して不安があるということが推測される。

質問 1 6

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
防災対策の充実	1	4	16	20	46	75	301
医療・福祉の充実	0	6	27	31	83	142	487
子育て・教育環境の充実	0	7	22	25	18	22	69
生活の利便性	0	4	18	35	61	105	344
歴史・文化・自然の保全	0	2	1	2	3	9	23
迅速な復旧・復興	0	3	32	49	116	157	453
産業の振興	0	1	10	26	31	47	98
地域コミュニティの維持	0	2	5	6	18	20	73
特にない/分からない	0	1	0	2	6	6	57
その他	0	1	1	3	0	2	9
有効回答数	1	31	132	199	382	585	1914

地域復興に際し、特に重要だと思うもの

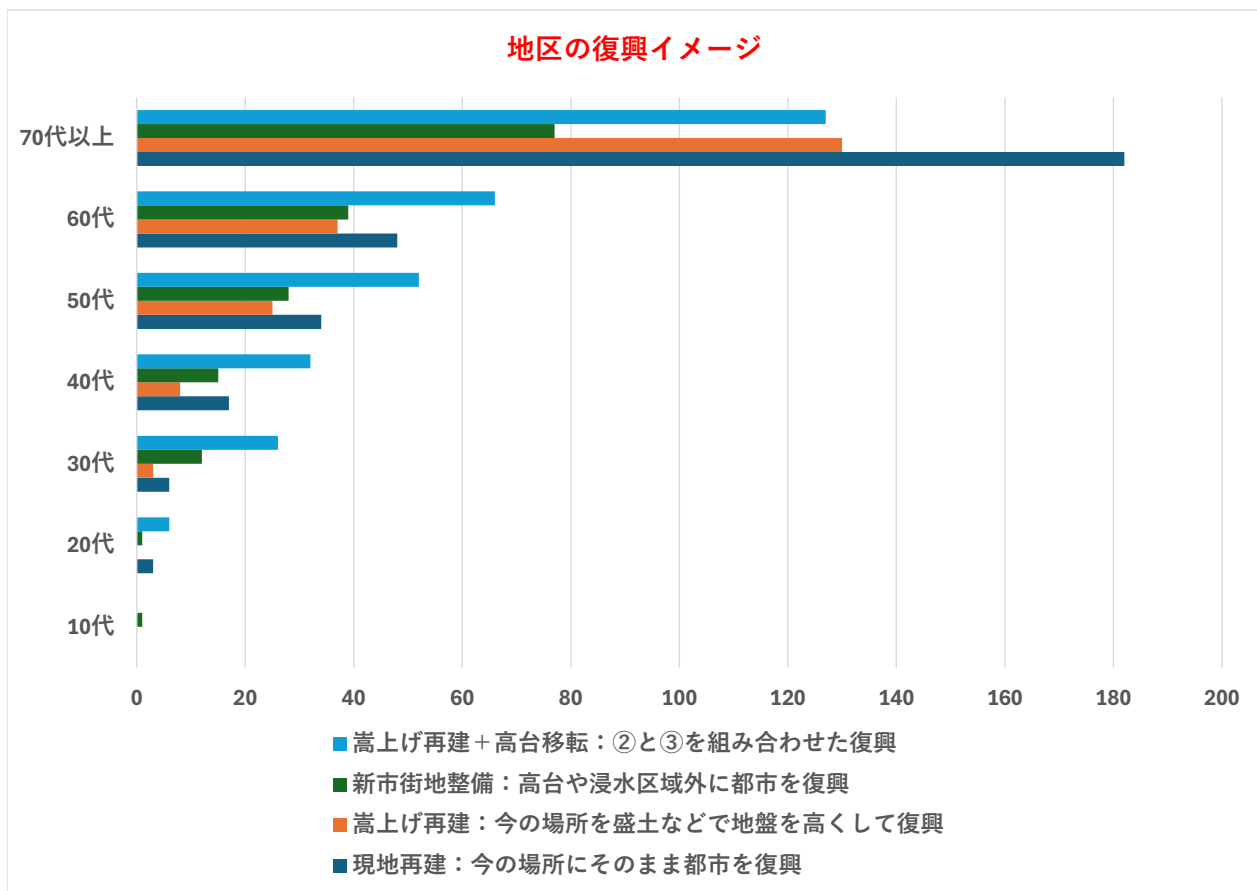


地域復興に際し、特に重要だと思うものについて、「迅速な復旧・復興」の回答が30代～60代の年代で多く、70代以上の年代では「医療・福祉の充実」に対する回答が多い結果となった。また「子育て・教育環境の充実」の回答については、20代～40代の年代の割合が多く、50代以上の年代の割合は急激に低い結果となった。

60代及び70代以上の高齢者層は、「生活の利便性」と回答した方も多い。また子育て世代の年代層は、前問と関連性がある回答結果となっている。

質問 17

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
現地再建：今の場所にそのまま都市を復興	0	3	6	17	34	48	182
嵩上げ再建：今の場所を盛土などで地盤を高くして復興	0	0	3	8	25	37	130
新市街地整備：高台や浸水区域外に都市を復興	1	1	12	15	28	39	77
嵩上げ再建＋高台移転：②と③を組み合わせた復興	0	6	26	32	52	66	127
有効回答数	1	10	47	72	139	190	516

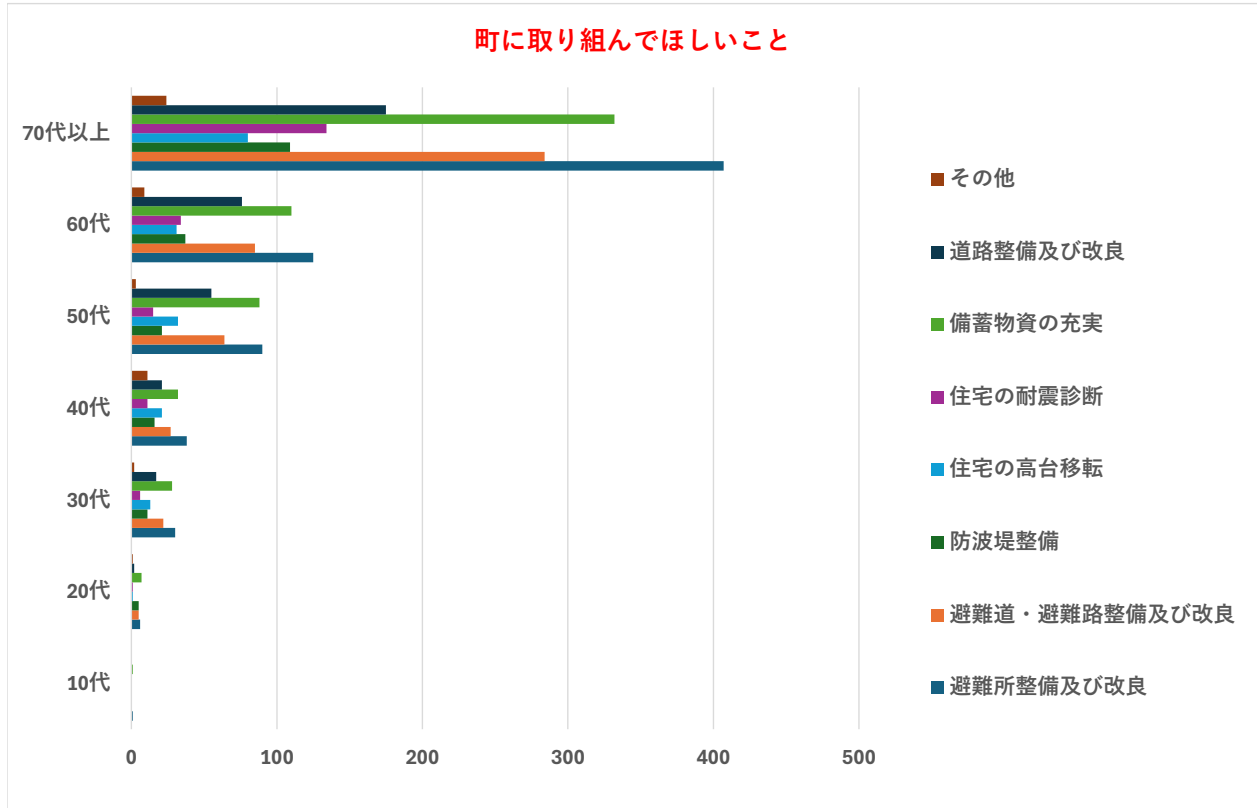


地区の復興イメージについて、「嵩上げ再建＋高台移転」と回答された年代は20代～60代が最も多く、70代以上の年代は「現地再建」という回答が最も多かった。しかし、各年代において復興イメージへの回答結果にそれほどばらつきは生じていない。

70代以上の多くは「現地再建」という回答が多かったのだが、全ての年代を統合すると「嵩上げ再建＋高台移転」への回答が「現地再建」を僅かに上回っている。一方で当該質問に未記載の回答者も多数存在し、復興のイメージ像が十分に伝わっていないとも言える。

質問 18

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
避難所整備及び改良	1	6	30	38	90	125	407
避難道・避難路整備及び改良	0	5	22	27	64	85	284
防波堤整備	0	5	11	16	21	37	109
住宅の高台移転	0	1	13	21	32	31	80
住宅の耐震診断	0	1	6	11	15	34	134
備蓄物資の充実	1	7	28	32	88	110	332
道路整備及び改良	0	2	17	21	55	76	175
その他	0	1	2	11	3	9	24
有効回答数	2	28	129	177	368	507	1545



町に取り組んでほしいことについて、「避難所整備及び改良」の回答が30代～70代以上において多数を占めた。次いで「備蓄物資の充実」の回答が同様に30代～70代以上の年代が多かった。

「防波堤整備」「住宅の高台移転」については、全体の約13%に過ぎず、着工から完成までに相当の日数を要するハード事業よりは、より身近でかつ短期間で取り組めるものに回答が多くなったものと推測できる。